

漏水補修にスーパー補修材『ウルトラパッチ』を採用

大阪市水道局は、河底横断管の漏水補修方法として、FRP（繊維強化プラスチック）シートを紫外線で硬化するスーパー補修材（阿南電機製、製品名『ウルトラパッチ』）を採用し、大きな効果を得ている。本紙では製品採用の背景や現状、今後への期待などについて、同局の担当者取材した。（大阪新聞部・石上和弘）

■FRPシートを紫外線で硬化

大阪市の水道事業は明治21年に創設し、今年で125周年を迎えた。9回の拡張事業を経て、現在は浄水場3カ所や管路総延長約5200kmなどを有している。これらの施設・設備の大半は、高度経済成長期に建設され、老朽化が進行しているため、積極的に管路更新などを推進している。

中井隆・水道局工務部配水課担当係長（管理）は「平成29年11月に、木津川連河の河底横断管（φ500鋼管、昭和40年代設置）の立ち上がり部から、漏水が発見されました。横断管は2

条あったので、漏水した方の管を直ちに断水し、修繕方法を検討しました。狭い現場での作業や工期短縮などを踏まえて検討していたところ、阿南電機の『ウルトラパッチ』を知り、試行的に採用することとしました」と経緯を説明する。

現場は潮風などの影響を受け、腐食しやすい環境にあるとともに、水面に近いため、大掛かりな足場を設置しての施工も困難な状況にあった。また、船を寄せたの施工も長期を要することが見込まれた。同課（管理）の足立正和

■施工は短期間で河底横断管の補修で成果

大阪市水道局

氏は『ウルトラパッチ』は、管路漏水箇所をケレン作業で削り、FRPシートを巻き付けて紫外線で硬化しますが、2〜3日と比較的に短期間で施工できました。平成30年5月の修復完了から約1年が経過し、現場に行きましたが、漏水や管路表面の剥離・サビなども確認されず、健全な状態

を保っており、なかなか良い製品という印象です」と語る。

■他の設備での採用も前向きに
中井係長も「比較的簡単に修繕できる上、作業も短期間でしたので、足場が悪い現場などの採用は非常に有効だと思います。本市では水道局運営方針として、鋼管を中心とした管路の調査・点検を強化するほか、1960年代に集中的に整備された工業用水道管路でも、経年化が進んでいる状況です。今後の採用は今回の状態を継続的に監視しつつ、検討していきたいですね」と見通しを語る。

場内配管など他の水道施設・設備での採用も、前向きな見解を示しながら「新しい技術については、水道局内で情報を収集・共有しています。今後も低コストで効果的な管路補修とともに、予防保全や延命化などにも努めていきたいと思っております」（足立氏）と意欲を見せる。



足立氏

中井係長



河底横断管の立ち上がり部から漏水



『ウルトラパッチ』での施工が完了

最後に、中井係長は「今回の工事は、既存工法に比べて安く済んだと思います。が、さらに工事費などが下がることに越したことはありません。要望としては、少量の漏水なら断水せずにそのまま補修できるように、対応していただけたらと思います。期待を寄せたいですね」と期待を寄せた。

財政措置の拡充など要望

大都市水道事業管理者会議 厚労省ら関係省庁に

全国の政令市と東京都 大都市水道事業管理者会 議は8日、臨時会を開催 関係省庁を訪れ、財政措



手渡した

置の拡充をはじめとする令和2年度国家予算に対する要望活動を実施した。厚労省では、幹事都市である広島市の平尾貢一・水道局長をはじめとする各都市の管理者ら

望について説明を行った。日置室長は財政措置の拡充について「緊急対策により耐震化や防災の取り組みを進めていくこととしており、水道施設整備費は（対前年度比）17.4%の予算を確保した。今後も皆さんの協力をいただきながら必要な予算の確保に努めていく」と、広域連携の推進について「生活基盤施設耐震化等交付金のなかで広域化事業について制度

そのほか、環境省と農林水産省には水源水質、内閣府には災害対策、環境省には水質、外務省と経済産業省には国際展開などに関する要望活動を行った。

（役職は当時）

答

横濱 第7回



三重 可能な水を模索 持続可能な研究 重環境課 4日、津

具